

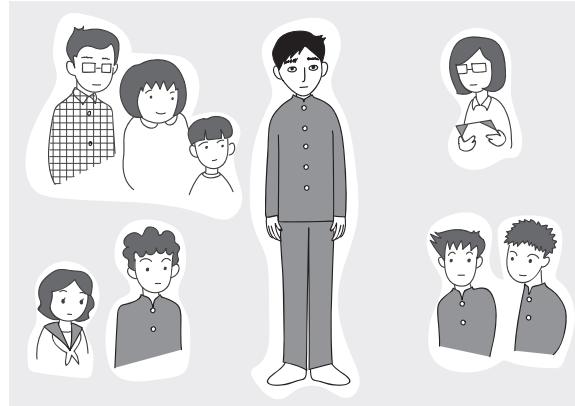
自分でない誰かになりたくて。

藤沢守くん（野洲市在住 13歳 男性 中学生）

中学1年生の守は、母親と5歳年の離れた弟の明（あきら）との3人暮らし。勉強も運動もぱっとせず、得意なこともない自分のことが嫌いな守。弟や同級生と自分を比べてしまい、自信を持てない日々を過ごしています。

父親は守が小学4年生の時に単身赴任で北海道へ。単身赴任に行く父親に「お母さんと明を頼むぞ」と言われ、長男としてしっかりしないといけないと、ますます自分にプレッシャーをかけるようになります。

逆に弟の明は勉強も運動も万能。そんな明が同じ小学校に入学してからは、家庭内の会話も明中心へとなっていきました。友達も多い明の学校生活の話を嬉しそうに聞いている母親の姿をみて、守は「自分は母親を喜ばせる話を何ひとつできない」と自分を情けなく思うようになりました。父親がたまに北海道から帰ってきて、長男の自負もあり、弟の前では素直に甘えられません。



学校でもクラスのなかでは自信が持てず、集団の中でも相槌をうつだけのことが多い守。友人との会話も二人きりになると沈黙が続き、友人がどこかへ行ってしまって独りになるようなこともあります。教室でいつも楽しそうにしている同級生達をみて「みんな悩みはないんだろうか？」と、羨ましく思っています。

中学に入ると、入学式で席が近かった子と親しくなり、陸上部に誘われます。何か新しいことに挑戦したいと思い入部、真面目に練習するものの、もともと運動が得意という訳ではないため、自分が目指す結果を残すことができません。

夏休み前の面談では進路についてクラスの担任に尋ねられるものの何も答えられませんでした。「クラスのみんなはもう進路のことを考えているんだろうか…」、担任とも距離感を感じている守は、自ら相談をしたり、自分の素直な気持ちを話したりできる相手がいない状態でいます。

……親に褒められ、部活で結果を出し、クラスの友達とも会話で盛り上がりれるような自分になりたい、でもそんな理想とはほど遠い今の自分を、時々「殺してしまいたい」と思う守。理想の自分になるためには何をどう頑張れば良いか分からず、ただただ苦しい気持ちを抱えています。

